



プロゴルファーの指導でゴルフに挑戦するカレッジ生たち(5面に関連記事)



CONTENTS

- P3** 両備バス旭川荘線 運行継続
- P4** 共に歩んで半世紀 山本克己さん、久枝さん
- P6** ヒノキのたまごアートプロジェクト入選作品
- P7** 親和会芸術祭 オンライン開催
- P8** かわかみ療護園で新年行事

旭川荘 だより

vol.
266

2022.3.1 発行

発行/社会福祉法人 旭川荘
〒703-8555 岡山市北区祇園866
TEL 086-275-0131 FAX 086-275-5640
<https://www.asahigawasou.or.jp>



カフェで開催されたあおばの街角ギャラリー。
奥の壁面に利用者の絵画が並ぶ(2面に関連記事)



岡山方式での「医療的ケア児支援」を

理事長 末光 茂

「医療的ケア児」支援への要望が全国で高まっています。医療の進歩に伴いNICU等で生命を救われたが、あとに人工呼吸器や胃ろう等を必要とし、たんの吸引や経管栄養などを日常的に欠かせない「医療的ケア児」が急増し、現在、全国に約2万人と推計されています。

「医療的ケア児」には、歩ける医療的ケア児から重症心身障害児までさまざまな態様がありますが、旭川荘では、重症心身障害児支援の実績の上に、地域の「医療的ケア児」の支援に取り組んできました。

国でも昨年9月に「医療的ケア児支援法」を施行しました。そこには都道府県等に「医療的ケア児支援センター」の設置などを求めています。

岡山市は昨年6月開設した「岡山市障害者基幹相談支援センター」のなかに「医療的ケア児」を担当する部門を設け、旭川荘の保健師が担当しています。

「ひらたえがお保育園」(定員90人)では、障害児約20

人のなかで、人工呼吸器を必要とする最も重い「医療的ケア児」を、看護師2人が保育士と一緒に、インクルーシブ保育に奮闘しています。昨年、国の検討会で実情を訴えたこともあり、この4月から2人の看護師配置の人員費を、国がバックアップしてくれることになったのを楽しんでいます。

さらに昨年12月1日、当園を視察された大森雅夫岡山市市長は、岡山市立の拠点保育園等での「医療的ケア児」受け入れを前進させるため、旭川荘の協力を求められました。

保育園そして次の小中学校での体制強化に加え、在宅訪問診療・リハビリと「医療型短期入所」の充実も不可欠です。行政としっかり連携し、それらが地域内で過不足無く整備され、名実ともに「岡山方式」と言われる姿を一日も早く示したい。

岡山でのチャレンジが、愛媛県での取り組みにも繋がれば、もっと素晴らしいと考えます。

カフェに利用者の絵画展示 あおば 街角ギャラリー

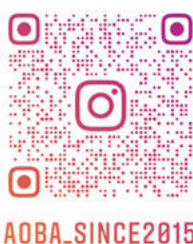
あおばは、利用者が日中活動で制作した絵画や手作り製品を紹介する街角ギャラリー「結 - tsunagu - 」を2月2日から13日まで、自家焙煎ナカニシ珈琲(岡山市北区中井町)で開催しました。

あおばが今年度進めている「Fun time プロジェクト21」の一環で、地域の人たちに作品を見てもらうことで利用者に喜びや、やりがいを感じてもらおうと初めて企画。元旭川荘職員の中西準さんがご夫婦で営むナカニシ珈琲にあおばが提案、快く協力いただき実現しました。

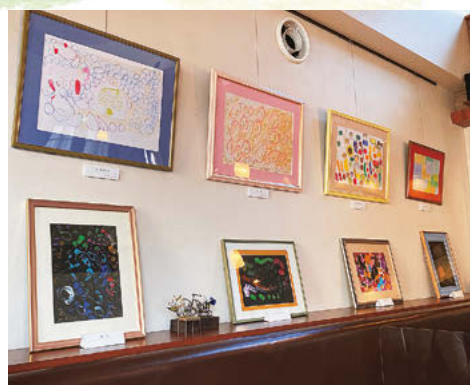
店内の壁には、8人の利用者がカラフルな絵の具や色鉛筆で描いた野菜やひまわりなどの作品が飾られ、入口近くの棚にはあおばの製品の水引アクセサリ

や英字新聞で作った新聞エコバックが並べられました。絵画や製品はアンティークのインテリアや飾り棚にも調和し、焙煎したてのコーヒーの香りと相まって落ち着いた空間を作っていました。

あおばの黒住卓副所長は「ナカニシ珈琲さんには素敵な場所を提供していただき本当に感謝している。利用者さんもご家族と見に行かれたようで、よい機会になった。今後も地域とのつながりを考えていきたい」と話しました。



詳しくはあおばのInstagramへ



店内に飾られた作品



期間中「結 tsunagu」のブレンドコーヒーが特別にメニューに

両備バス旭川荘線 来年度も運行を継続

昨年9月、両備バス旭川荘線(岡山駅—旭川荘線および高島駅前—旭川荘北線)について、廃止を含めた見直しを検討されているとの新聞報道がありました。心配された方も多いと思いますが、旭川荘と両備ホールディングス(株)が協議を続けてきた結果、これらの路線は維持され、来年度も現在のダイヤと変更なく運行されることとなりました。

その名のとおり旭川荘と共に歩んできた「旭川荘線」。旭川荘の創立間もない頃は、現在のようバス路線はなく、障害児を抱えて旭川荘に通う親御さんや通院に付き添う職員たちは、荘内にわずかにあったマイクロバスを使う以外には、旭川の対岸などの遠く離れたバス停まで歩くしかなく、苦労が絶えなかったといえます。そのような中で開通した岡山駅—旭川荘線は、隔世の感をもって迎えられたそうです。

その後も、竜ノ口寮の利用者らの働きかけもあって1998年に岡山県下初のノンステップバスが旭川荘線に導入され、2003年には高島駅—旭川荘北線の運行が開始されるなど、同社は公共交通機関として、いわゆる「交通弱者」に寄り添った運行をされてきました。現在も多く障害者や学生にとって、かけがえのない交通手段となっています。

しかしながら、近年のマイカーの普及等による乗客の減少、さらにコロナ禍による減収で、今後は路線の維持が難

しいとの意向が同社から示されました。旭川荘としては、貴重な交通手段が失われることを看過するわけにはいきません。とはいえ旭川荘がバスを運行するには、法規制や安全確保・コスト面など多くの困難を伴います。同社と協議した結果、旭川荘が必要な定期券等を購入して支援を行うことで、現在の路線が維持できることとなりました。(詳しくは同社ホームページの発表資料をご覧ください。)

また、同社はあわせて、バス停の名称を一部変更することを発表しています。

現在の名称	新名称
下の原南(下りのみ停車)	下の原南・旭川荘南地区前
中の原南	中の原南・総合在宅支援センター前
中の原	中の原・旭川荘厚生専門学院前

このような問題は、旭川荘線に限ったことではありません。今後、公共交通機関の在り方について行政機関や市民を含めた幅広い議論が行われ、旭川荘がこのような支援を行わなくてもバスが走る日が再び来ることを願っています。
(広報委員長 小幡篤志)

岡山南ロータリークラブより桜の植樹

岡山南ロータリークラブから今年も桜を植樹していただきました。旭川荘への桜の植樹は1997年に始まり、今年で25回目。合計107本になります。

今年度は2月15日に植樹式が予定されていましたが、1月27日から2月20日まで岡山県に新型コロナのまん延防止等重点措置が適用され、その後3月6日まで期間が延長されたため、植樹式は一度の延期を経て中止となりました。

式典は中止されましたが、桜は予定どおり植樹され、同クラブの永山久人会長ら関係者4人が3月1日に旭川荘を訪問。昨年に続き竜ノ口寮南側駐車場に植えられたソメイシノ2本を前に、末光茂理事長らと語りました。

永山会長は「これまで植樹した桜を、皆さんが楽しんでくださっていると聞いています。今年の桜もぜひお楽しみください」とあいさつ。末光理事長は「重い障害のある人がベッドサイドからお花見をすることができ、大変ありがたく思っています」とお礼を述べました。

また、竜ノ口寮の利用者で同寮自治会長の片岡三徳さんは「雨の中ありがとうございました。桜が咲く頃には皆で外

出できることを祈っています」と新型コロナの収束を願っていました。



桜を見上げる末光理事長、永山会長(中央)、片岡さん(右)

共に歩んで半世紀 山本克己さん、久枝さん いんべ通園センター 金婚祝う

いんべ通園センターを夫婦で利用している山本克己さん(84)と久枝さん(77)は昨年9月に結婚50周年を迎えました。1月21日に同センターで行われた「節目を祝う会」では、新成人のお祝いとともに2人の金婚を祝福。克己さんは「周りの人がいい人ばかり。本当に人に恵まれていた」と共に歩んだ半世紀を振り返りました。

生まれつき手足に重い障害のある克己さん。1971(昭和46)年当時、働いていた仏具製造会社「光瓔珞製作所」(備前市穂浪)の社長で「親父さん」と呼び慕っていた中村音次郎氏の尽力で、滋賀県生まれで知的障害者施設「止揚学園」(東近江市)にいた久枝さんに出会いました。2人の結婚を媒酌したのは、止揚学園の支援者だった彦根市長夫妻。克己さんは34歳、久枝さんは27歳の時でした。

「来たばかりの頃は言葉(岡山弁)が分からなかったよ」という久枝さん。軽い知的障害はあるものの手先が器用なことから、克己さんと同じ職場に入り、2人で社宅に暮らしながら共に60歳の定年まで勤めました。「社員旅行で沖縄や石川に一緒に行ったのもいい思い出」(久枝さん)と言います。

2002(平成14)年4月、いんべ通園センターの開所に合わせて克己さんが利用を始め、久枝さんも2004年から通所しています。現在、克己さんは牡蠣の養殖に使う貝殻を紐でつなぐ「バンガラ」作業を、久枝さんは工事現場で使う大きな袋の口を特殊な結び目で結ぶ「ロープ」作業をそれぞれ担当。余暇活動として始めた絵画では、夫婦ともに才能を発揮。克己さんは口で筆をくわえて描くスタイルで水彩の風景画を、久枝さんは主に動物の油絵を描きます。2人とも「旭川荘アートギャラリー展」や「きらぼし★アート展」などの展覧会で賞を重ねて「認められると、また頑張ろうという気持ちになる」(克己さん)と創作への意欲を見せます。

互いを「父さん」「おい」と呼び合う2人。土曜開所の外出や行事の旅行などは揃って参加し、仲睦まじい姿を見させています。コロナ禍のため、ここ1、2年は遠出の機会も減ってしまいましたが、休日には民間の送迎サービスを利用して、2人で自宅から少し離れた大きめのスーパーへ出掛け、買い物を楽しんでいると言います。

節目を祝う会は、メイン会場の食堂と各日中活動部屋をオンラインでつなぎ、利用者、職員約60人が参加。50年の夫婦の歩みを紹介したスライドの中には結婚式の写真もあり、職員から「久枝さんきれい」の声も。最後に挨拶に



職員手作りのコサージュを付けて、節目を祝う会に参加した山本克己さん(左)と久枝さん



克己さんが独身の頃から親しんできた唯一の趣味は詩吟。岡山まで習いに行くのに毎回、久枝さんと通っていたそうです。「私は足が丈夫じゃないし、道具も自分で持てないから、ずっと付き添ってくれていた」と久枝さんを労う克己さん。久枝さんも静かに微笑み返します

立った克己さんは、感謝の言葉とともに「幸せだったなと思う。親父さんに『結婚は辛抱。大きな気持ちを持ったんといけん』と言われ、その言葉を胸に今までやってきた。これからも喧嘩をしながらでも一緒にやっていきたい」と語りました。



「ゴルフって楽しい!!」 カレッジ生にプロがレッスン

カレッジ旭川荘(注★)で学ぶ若者たちが、昨年11月から月に1回、プロゴルファーの指導でゴルフに取り組んでいます。これまでに2年生と3、4年生が各1時間のレッスンを受講。カレッジ生の多くはゴルフの経験はないものの、プロのサポートによりクラブでボールを打つ心地よさを味わい、「楽しかった」「またゴルフをしたい」と次のレッスンの機会を心待ちにしています。



クラブの使い方について説明する志保プロ

指導するのはゴルフパートナー岡山練習場(岡山市東区神崎町)でレッスンを担当するPGA(日本プロゴルフ協会)ティーチングプロA級の志保浩嗣さん。レッスン生の旭川荘職員から偶然カレッジの活動を聞いたのがきっかけで、「ゴルフを通して障害のある人たちの力になれたら」とボランティアで指導を引き受

けてくださることになりました。

志保プロは以前、出身地の兵庫県で知的障害者施設の人たちにゴルフを教えた経験もあり「うつむきがちな人たちが、身体を動かすうちに、いい表情を見せてくれるようになった。初めての人でも、コツをつかめばボールは

飛ばし、感動する。ゴルフの面白さを分かってもらえたら嬉しい」と話します。

会場の岡山練習場もカレッジの希望に合わせて必要打席を確保するとともに、2年生9人が参加した初回のレッスン時には、練習用クラブを全員にプレゼントして下さるなど全面協力。頂いたクラブは3、4年生のレッスンでも活用しています。

レッスンには毎回10人前後が参加。志保プロがクラブの握り方、構え方など説明し、ショットのお手本を見せた後、各打席に分かれて“クラブでボールを打つこと”に挑戦します。初めのうちは空振りしたり、ボールの手前のマットを叩いたり、慣れない道具を持って余っていたカレッジ生も、志保プロから個別に指導を受けて、徐々にクラブをボールに当てられるように。時折、50ヤードの看板を越えるナイスショットが出ると、笑顔でガッツポーズを決めていました。

1、2月のレッスンは新型コロナウイルス・オミクロン株の感染拡大により延期になりましたが、状況の改善を待って次回は1年生がレッスンを受け、その後は希望者を中心にレッスンを重ねていく予定です。

カレッジの大月政和学院長は「運動が苦手な人もいますが、志保プロのお陰で最初のレッスンからゴルフの楽しさに触れることができ、皆とても喜んでいる。『もっとゴルフをやりたい』という声も多く、引き続きカレッジ生へのサポートをお願いできれば」と話しています。

注★:カレッジ旭川荘 知的障害、発達障害のある18歳以上の人たちを対象にした4年制の学びの場。2017年に開設。2022年2月現在、31人が在籍する。



プロのお手本ショットに見入るカレッジ生ら



ヒノキのたまごアートプロジェクト入選作品(敬称略)

※旭川荘だより265号の続き。キャプションは上から作品タイトル、作者名、所属

利用者



ドナルド
松本喜美恵
グループホームやすらぎ荘



似顔絵
梶原清子
グループホームよしい川



お花畑
松島可奈
あおば



男の人、女の人
山下浩一
いづみ寮



大地
鄭美栄
いづみ寮



天使の卵
須山紗羽
いんべ通園センター



TSUKUDA
西藤望子
かえて寮



無病息災!アミーベ様
毛利未咲
カレッジ旭川荘



なすび
更井友昭
かわかみ療護園



万国旗と子供達
横川浩美
くわのみどりの家



船
福江聖也
せとうち旭川荘



いつも元気な女の子
河本弘子
デイセンターあかしや



白寿
岸本浩子
デイサービスセンター敬老園



ボタニカル
藤川日菜子
のぞみ寮



はらへこあおむし
中川奨吾
のぞみ寮



自画像
横内照治
のぞみ寮



未来のたまご
松田正子
グループホームはなみずき



サンタクロース
西井イト
ひだまり苑



ふくろう
原俊介
わかば寮



エッグ
香西有美子
愛育寮



ウェーブ
坂本廣子
旭川敬老園



新しい作品の試食
藤原勉
旭川敬老園



ノー マスク ノー コロナ
甲斐充
吉備ワークホーム



ドッチッチ
能美美恵子
結びの杜ホーム



イースターエッグ
S.F.
津島児童学院



マーブリング
山口喜子
旭川荘療育・医療センター



芸術大爆発!
木村節子
旭川荘療育・医療センター

学生



Air Pods
依岡莉紗
旭川荘厚生専門学院



大爆笑
大福民子
グループホームやすらぎ荘



ひつじ雲の夢
池田佳代
あおば



はい、チーズ
佐藤法子
かえて寮



幸せねこエッグ
草加千尋
カレッジ旭川荘



祈り 地球を守って
三村美恵
かわかみ療護園



かおなし
柴床理恵
デイサービスセンター敬老園



ヒノキのたまごアートプロジェクトの概要を動画で紹介しています。



巣ごもりからの
黒住恵子
のぞみ寮



宝たまご
上田福子
グループホームはなみずき



リンゴが食べたいな
樋口道子
旭川荘真庭地域センター



和洋折衷
清水俊佑
望の丘ワークセンター



年輪
小野智香子
竜ノ口寮



コロナの叫び
田陽香織
旭川荘療育・医療センター

ヒノキのたまごアートプロジェクト実行委員会

旭川荘アートギャラリー / 旭川荘美術活動振興委員会 / 企画広報室 / 旭川荘新型コロナウイルス肺炎対策本部

今年もオンライン開催 親和会芸術祭

旭川荘職員が趣味で作った作品を展示する「親和会芸術祭」が1月17日から2月4日まで、昨年に続きオンライン（Google フォト）で開催されました。

自作した絵画や書、手工芸品、写真などが対象で、画像データで提出。施設の職員と利用者の日常の1コマを描いた絵画や、浜辺で拾ったシーグラスを積み上げて作った間接照明のオブジェ、ハワイアンキルトのカメラケースなど個性あふれる作品が170点出品されました。中には布製のマスクケースやアマビエのキャンドルなどコロナ禍ならではの作品も。

ポスターに掲載されたURL やQRコードでパソコン、

スマートフォンなどからアクセスして閲覧と投票ができ、111票の投票から親和会会長賞などが選ばれました。



神社に参拝できない利用者のために作った松島智枝美さん（旭川敬老園）の「敬老園神社」（親和会会長賞）

長瀬竜加さん（旭川荘療育・医療センター）が毛糸で作った「柴犬3兄弟」（芸術賞）

新春ふくのいち 招き猫美術館で開催

旭川荘の施設で作られたネコグッズなどを販売する「寅年新春 旭川荘ふくのいち」が1月6日から31日まで、招き猫美術館（岡山市北区金山寺）で開かれました。

2019年の亥年から始まった新春企画で、今回のテーマは「ネコとエトセトラ」。「その他いろいろ」の意味の「エトセトラ」に干支（エト）、寅（トラ）をかけて、ネコグッズと干支にちなんだ製品を集めました。

会場には吉備ワークホームで制作したネコやトラのマスコットを配したセラミック粘土の置物や、あおばの干支の置物、

ネコをモチーフにした竜ノ口寮の七宝焼き製品、いんべ通園センターのレジンで作ったネコ型キーホルダーなど約400点を展示。各施設でモノ作りに励む利用者の様子を写真パネルで紹介しました。



ネコと干支にちなんだ製品が並んだ「ふくのいち」

リレーコラム

「手伝って」って言えるかな？

子どもたちの療育に携わるようになってから「援助要求スキル」という言葉を知りました。これは子どもたちがさまざまな理由で困ってしまった時に、誰かに手助けを求められることができるというとても大切なコミュニケーションスキルです。

このスキルは大人から方法を教えられて身につくものではありません。スキルとして身につけるためには、まずは困った時に誰かの手助けを受け入れ成功体験を積んでいく基礎づくりが必要です。子どもたち自身が「誰かと一緒だとすくすく」と感じられるなか、ジェスチャーやカードなども含め、それぞれに合わせた方法で教えていくと、少しずつ人との関わりが上手になり、その子のスキルとして力に

なっていきます。

このスキル、実は大人でもなかなか難しいものです。特に私は思い当たる節が多く、誰かにうまく頼ることができず一人で抱え込んでしまう時期もありました。そんな自分自身を認識するようになってから意識的に人に頼るようにしています。「教えてください」「手伝ってください」そして「ありがとう」と言えるようになると、以前よりも生活がしやすく、また、楽しく人と関わることも増えたように感じます。

子どもたちに何かを教えようとする、逆に私自身が教わることが多いと感じる今日この頃です。

（みどり学園 川本大輔）



20年の成長実感 成人を祝う会 あおば

あおばで1月11日、「成人を祝う会」が開催され、利用者2人の晴れの日を家族や利用者、職員が祝いました。

会場に大きな拍手で迎えられた新成人の2人は少し緊張しながらも、嬉しそうな表情で入場。矢幡伸世所長が「成人おめでとうございます。これから興味のあることに挑戦して、自分らしさを大事にしながら充実した日々を過ごしてください」とお祝いの言葉を述べました。

それぞれの生い立ちムービーが流れた後、新成人から家族へ「作業頑張ります。これからもよろしく」「いつもありがとう」などの感謝のメッセージが伝えられました。最後に利用者、職員と一緒にV6の「WAになって踊ろう」を演奏。新成人は1人がドラムセットを、もう1人はタンバリンをたたき、他の利用者も大太鼓や小太鼓、鈴、鉄琴などを担当。職員の弾くピアノに合わせて、軽快なリズムを刻んでいました。

出席した家族は「最後まで会場で楽しそうに過ごせてよかった。成長を感じられた」と話していました。

このほかにも療育・医療センターや竜ノ口寮、ひらた通園センター、いんべ通園センターなどで新成人を祝うイベントが行われました。



家族と記念写真を撮る新成人の2人(左から2番目、3番目)

岡山県損害保険代理業協会より 車いすの寄贈

一般社団法人岡山県損害保険代理業協会(岡山市中区原尾島)より1月26日、旭川荘に車いすを1台寄贈していただきました。

ピュアリティまきび(同北区下石井)で行われた贈呈式には同協会の歳森宏会長をはじめ、リモート参加を含め26人が参加。歳森会長より旭川荘事務局総務班の石橋栄人課長へ車いすが手渡されました。石橋課長は「毎年のご支援に感謝いたします。本来なら現場職員が受け取るのですが、コロナ禍のため代理でいただきます。高梁市にあるひだまり苑という高齢者施設で大切に使用します」と挨拶しました。

車いすの寄贈は2015年度から毎年行われ、今年で7回目、合計9台になります。



歳森会長(左から2番目)より車いすを受け取る石橋課長(左)

手作りの新年行事 かわかみ療護園

かわかみ療護園で1月12日、コロナ禍のため神社へ参拝に行けない利用者楽しんでもらおうと、職員が神社の映像などを使った“バーチャル初詣”を企画しました。

会場となった食堂にはスクリーンに神社を映し、職員が作った小さな鳥居と賽銭箱、おみくじを準備。利用者は巫女に扮した職員から賽銭用の手作り小銭を受け取り、順番にお参り。手を合わせてコロナの収束を祈りました。

おみくじは「大吉」「中吉」「小吉」を1枚ずつ、他は全て「末吉」にして地域ボランティア「四葉の会」からいただいた記念品を賞品としたくじ引きに。何が当たるか、皆ドキドキしながら運試しをしました。この他、獅子頭に頭を噛んでもらい厄除けをしたり、振りながら願い事をするとう願いが叶うと言われる打ち出の小槌を振ったり、盛りだくさんの初詣を満喫しました。



鈴を鳴らして神社にお参りをする利用者



職員が扮した巫女や手作りのお参りグッズ

3月

- 4日 第50回卒業証書授与式……………旭川荘厚生専門学院
- 17日 令和3年度第4回理事会……………旭川荘
- 23日 いづみ寮芸術祭表彰式……………いづみ寮
- 26日 卒業式……………カレッジ旭川荘
- 30日 令和3年度第3回評議員会……………旭川荘

4月

- 1日 辞令交付式……………旭川荘
- 6日 入学宣誓式……………旭川荘厚生専門学院

編集後記

「喧嘩をしても次の日に持ち越さない」。金婚を迎えた山本ご夫妻に夫婦長続きの秘訣を聞きました。夫婦間だけでなく、社会生活でもとても大切な考え方だと思います。1日の嫌なことはその日で終わり。次の日はリセットして新たな気持ちでスタート! その積み重ねで50年。すごいですね。私も前向きな気持ちで毎日を迎えられるようにしたいです。

(広報委員 川田明奈)